

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月10日

上場会社名 株式会社 三洋堂書店

上場取引所 大

コード番号 3058 URL <http://www.sanyodo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役最高経営責任者兼最高執行役員 (氏名) 加藤 和裕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長上席執行役員社長室長 (氏名) 竹林 由夫
四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日 配当支払開始予定日 平成23年12月6日

TEL 052-871-3434

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	13,610	—	467	—	461	—	229	—
23年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 229百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 100百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	40.92	40.64
23年3月期第2四半期	—	—

(注) 前連結会計年度の期末より連結財務諸表を作成しているため、平成23年3月期第2四半期の数値については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	17,754	3,219	17.9
23年3月期	18,159	2,827	15.4

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 3,182百万円 23年3月期 2,798百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	8.00	—	9.00	17.00
24年3月期	—	4.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	4.50	8.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成24年3月期(予想)の1株当たり配当金につきましては、平成23年4月1日付で実施いたしました、普通株式1株を2株に分割する株式分割後の株式により算定しております。

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,200	0.8	500	37.0	450	43.3	100	—	17.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(その他)」に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	6,000,000 株	23年3月期	5,800,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	206,758 株	23年3月期	207,558 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	5,609,275 株	23年3月期2Q	― 株

(注) 当社は、平成23年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して前連結会計年度末に係る株式数を算定しております。なお、前連結会計年度の期末より連結財務諸表を作成しているため、平成23年3月期第2四半期の数値については記載しておりません。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
なお、平成23年3月期(前連結会計年度)の期末より、連結財務諸表を作成しております。
2. 平成23年3月31日現在の株主に対し、平成23年4月1日付をもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割しております。なお、「3. 平成24年3月期の連結業績予想」の1株当たり当期純利益は、当該株式分割の影響を考慮しております。
3. 平成24年3月期通期(予想)の1株当たり当期純利益は、平成23年9月6日に実施した第三者割当増資200,000株を含めた予定期中平均株式数5,701,259株により算出しております。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。また、当社グループは、平成23年11月29日(火)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による不安定な状態から徐々に回復しているものの、米国、欧州の財政不安による世界的な景気の停滞、急激な円高進行等により先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境につきましても、消費者の生活防衛意識や価格選好意識の高まり、書籍及びCD・DVD販売市場の縮小傾向、競合他社との競争激化などにより、引き続き厳しい状況が続いております。

このような経営環境において、当社グループは、4月に瑞浪中央店（岐阜県）に古本、5月に香芝店（奈良県）に古本と雑貨、6月には新関店（岐阜県）に古本、雑貨、TVゲーム、7月に城山店（愛知県）、8月にいりなか店（名古屋市）、9月に名張店（三重県）にそれぞれ古本と雑貨の導入を図るなど、本を中心としたブックバラエティストア化による既存店の改装を推進して、お客様の利便性追求とともに売上高と粗利益高の向上に努めてまいりました。

以上の結果、売上高136億10百万円、営業利益4億67百万円、経常利益4億61百万円、四半期純利益2億29百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 個人顧客事業

個人顧客事業の売上高は、東日本大震災の影響による厳しい状況から徐々に持ち直す動きがみられるものの、雇用や所得環境への不安はおさまらず、生活防衛意識はさらに強くなり、電力供給懸念に伴う産業界の輪番休日導入などの影響もあるなかで、全体では134億93百万円となり、セグメントの営業利益は5億26百万円となりました。

（書店部門）

書店部門におきましては、書籍は本屋大賞を受賞した「謎解きはディナーのあとで」やサッカー日本代表キャプテン長谷部誠の「心を整える。」のほか、「人生がときめく片づけの魔法」などがミリオンセラーを達成するなかで、第145回直木賞受賞の「下町ロケット」や政府・官僚機構を批判した「官僚の責任」「日本中枢の崩壊」なども健闘し、さらに原発関連書も話題となりましたが、昨年の「1Q84（BOOK3）」のような大ベストセラーには恵まれず、また、雑誌も震災の影響や昨年程の話題作がないなどの理由により厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、書店部門の売上高は86億42百万円となりました。

（文具部門）

文具部門におきましては、ブックバラエティストア改装によって新たに6店舗で導入した雑貨に加え、DVDプレーヤーやデジタル音楽プレーヤーなどの廉価な家電を始めとする新規商材の導入を積極的に行ってまいりました。また、定番商品が引き続き堅調な売れ行きを見せたほか、ファンシーや季節商品の拡販などの取り組みも並行して行ったことによって、売れ行きは好調に推移いたしました。

以上の結果、文具部門の売上高は7億29百万円となりました。

（セルAV部門）

セルAV部門におきましては、6月にはAKB48や少女時代などのCD新譜のほか、DVDにおいても嵐やAKB48、「借りぐらしのアリエッティ」などの話題商品が好調に推移して売上を伸ばしました。しかしながら、続く8月と9月は、CD、DVDともに昨年に匹敵するような話題作に恵まれなかったため、新譜の事前予約獲得活動や旧シリーズの3枚3,000円作品の展開などにより拡販を図ってまいりましたが、昨年との差は埋めきれず厳しい状況となりました。

以上の結果、セルAV部門の売上高は11億63百万円となりました。

（TVゲーム部門）

TVゲーム部門におきましては、ソフトでは有力な新作タイトルが昨年に比べて弱かったものの、ハードではニンテンドーの3DSとソニーのPS3の値下げが8月に行われた影響により、販売台数が伸張しました。また、ブックバラエティストア化の一環としてTVゲーム販売店を4店舗増やしたことや、販売店だけでなく非販売店でも予約獲得を受け付けるなどの積極的な予約獲得活動を展開したことも、増売に効果がありました。新作ゲームの販売伸張は中古ゲームにも好影響をもたらし、さらに、チラシ配布や買取UPキャンペーンなどの買取強化策の効果もあって、中古ゲーム販売も好調に推移することとなりました。

以上の結果、TVゲーム部門の売上高は5億21百万円となりました。

（古本部門）

古本部門におきましては、ブックバラエティストア改装によって導入店舗数を6店舗増やして21店舗としたほか、非導入店舗におきましてもほぼ全店舗で買い取りを実施しております。また、買取の競合が増えるなか、6月のテレビCMの放映に加え、店外へののぼりの設置や、レジカウンター周りでの各種告知の展開などの全社的な取り組みは、買取認知の向上に大きく貢献し、売上の伸張にもつながりました。

以上の結果、古本部門の売上高は1億68百万円となりました。

（レンタル部門）

レンタル部門におきましては、競合他社との低価格競争は継続しておりますが、昨年から取り組んでいる準新作コーナーの充実や、DVDの貸出上限枚数アップによる利便性の向上が一定の効果をあげました。また、新作DVDの「ハリー・ポッターと死の秘宝PART1」（4月）、「借りぐらしのアリエッティ」（6月）、「ナルニア国物語第3章」（7月）や「塔の上のラプンツェル」（7月）などの話題作の牽引によって、売上は堅調に推移しました。

以上の結果、レンタル部門の売上高は22億68百万円となりました。

② 法人顧客事業

フランチャイズ契約の獲得に伴い4月にF C店舗を開店したことから、フランチャイジーの経営指導や商品卸売販売などによる売上高は15百万円となり、セグメントの営業利益は3百万円となりました。

③ サービス販売事業

玩具自動販売機の売上が引き続き伸張したことにより自動販売機収入が増加しました。その結果、不動産の賃貸収入及び受取手数料等とあわせてサービス販売事業の売上高は1億1百万円となり、セグメントの営業利益は83百万円となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は177億54百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億4百万円減少いたしました。これは主に、商品の減少などにより流動資産が1億1百万円減少したこと、建物及び構築物などの償却により固定資産が3億3百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては145億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億96百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が3億34百万円減少したこと、短期借入金が返済により2億円減少したこと、長期借入金が返済により4億16百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては32億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億91百万円増加いたしました。これは主に、第三者割当増資により資本金と資本剰余金がそれぞれ89百万円増加したこと、四半期純利益の計上などにより利益剰余金が2億4百万円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成23年11月8日に第2四半期累計期間のみ連結業績予想を修正しております。通期の連結業績予想につきましては、依然として先行きの不透明感が強いことから主に書店部門において下振れを予想しており、販売費及び一般管理費についても予想より増加する見込みであることから、平成23年5月13日に発表した予想数値から変更しておりません。

詳細につきましては、平成23年11月8日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、今後の進捗状況により、連結業績予想に関し修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用）

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に当たり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成23年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,424,686	1,412,990
売掛金	71,200	60,766
商品	5,780,528	5,608,817
その他	414,593	507,317
流動資産合計	7,691,009	7,589,891
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	4,297,795	4,118,498
土地	2,780,591	2,780,591
その他 (純額)	593,679	534,660
有形固定資産合計	7,672,066	7,433,750
無形固定資産	567,066	527,528
投資その他の資産	2,228,866	2,203,177
固定資産合計	10,467,999	10,164,456
資産合計	18,159,009	17,754,348
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,087,183	8,752,704
短期借入金	200,000	—
1年内返済予定の長期借入金	853,168	842,848
未払法人税等	159,861	241,636
賞与引当金	72,426	104,527
ポイント引当金	193,590	193,650
資産除去債務	2,000	1,011
その他	427,843	491,487
流動負債合計	10,996,072	10,627,865
固定負債		
長期借入金	3,425,748	3,009,484
退職給付引当金	349,116	332,952
資産除去債務	535,379	539,711
その他	24,964	24,964
固定負債合計	4,335,208	3,907,113
負債合計	15,331,280	14,534,979

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,200,100	1,290,000
資本剰余金	927,033	1,016,933
利益剰余金	817,358	1,021,609
自己株式	△178,917	△178,227
株主資本合計	2,765,574	3,150,314
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,459	31,965
その他の包括利益累計額合計	32,459	31,965
新株予約権	29,694	37,087
純資産合計	2,827,728	3,219,368
負債純資産合計	18,159,009	17,754,348

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	13,610,132
売上原価	9,409,939
売上総利益	4,200,193
販売費及び一般管理費	3,732,596
営業利益	467,596
営業外収益	
受取利息	3,057
受取配当金	1,938
受取保険金	18,285
その他	6,342
営業外収益合計	29,623
営業外費用	
支払利息	33,849
その他	1,836
営業外費用合計	35,685
経常利益	461,535
特別利益	
固定資産売却益	249
特別利益合計	249
特別損失	
固定資産除却損	13,778
その他	48
特別損失合計	13,826
税金等調整前四半期純利益	447,958
法人税、住民税及び事業税	227,519
法人税等調整額	△9,104
法人税等合計	218,414
少数株主損益調整前四半期純利益	229,543
四半期純利益	229,543

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

		当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益		229,543
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		△494
その他の包括利益合計		△494
四半期包括利益		229,049
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		229,049

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年9月6日付で、豊田信用金庫から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結会計期間において資本金が89,900千円、資本準備金が89,900千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,290,000千円、資本準備金が1,016,933千円となっております。

(5) 重要な後発事象

当第2四半期連結会計期間
(自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日)

(新株予約権の発行)

(1) 取締役に対するストック・オプションの発行

当社は、平成23年9月13日開催の取締役会決議に基づき、平成23年10月3日付で、以下のとおり当社の取締役に對してストック・オプションとして新株予約権を付与いたしました。

- ① 新株予約権の割当ての対象者
当社取締役 3名
- ② 新株予約権の目的である株式の種類及び数
当社普通株式 3,000株
- ③ 発行する新株予約権の総数
30個
- ④ 新株予約権と引換えに払い込む金銭
1株当たり 218円
なお、各取締役は、新株予約権と引換えに金銭を払い込むことを要しないものとする。
- ⑤ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
新株予約権1個当たり 96,900円
(1株当たり 969円)
- ⑥ 新株予約権の権利行使期間
平成25年10月3日から平成28年10月2日まで
(西暦2013年10月3日から西暦2016年10月2日まで)
- ⑦ 新株予約権の割当日
平成23年10月3日

(2) 従業員に対するストック・オプションの発行

当社は、平成23年9月13日開催の取締役会決議に基づき、平成23年10月3日付で、以下のとおり当社の従業員に對してストック・オプションとして新株予約権を付与いたしました。

- ① 新株予約権の割当ての対象者
当社従業員 34名
- ② 新株予約権の目的である株式の種類及び数
当社普通株式 19,500株
- ③ 発行する新株予約権の総数
195個
- ④ 新株予約権と引換えに払い込む金銭
新株予約権と引換えに金銭を払い込むことを要しないものとする。
- ⑤ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
新株予約権1個当たり 96,900円
(1株当たり 969円)
- ⑥ 新株予約権の権利行使期間
平成25年10月3日から平成28年10月2日まで
(西暦2013年10月3日から西暦2016年10月2日まで)
- ⑦ 新株予約権の割当日
平成23年10月3日